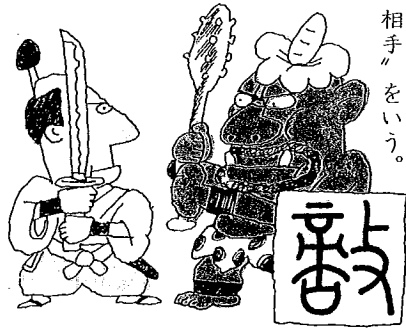


敵

【おん】 テキ
かたき

【5年】

【15画】 商 商 商 商 敵



【なりたち】 攻める意味の女と、商との会意形声字。「攻めるべき唯一の相手」という意味の字。また、相手に取って不足はないというような「有力な相手」をいう。

【いみとじゆく】
▼相手になる。互いに五分であらそう。
匹敵：競争相手として、力の程度が同じ位であること。
不敵：敵を敵とも思わない態度。【例】大胆不敵
無敵：相手になる敵がないほど強いこと。【例】天下無敵
▼（戦争・試合などの）相手。
敵手：①敵の手。【用例】敵手に倒れる。②敵。競争相手。
【例】好敵手（互角の相手）。
敵襲：敵がおそいかかって来ること。
敵情：敵（軍）の様子。【用例】敵情を探る。

▼かたき。うらみのある相手。敵意：相手を敵とみて憎む気持ち。【用例】敵意を抱く。

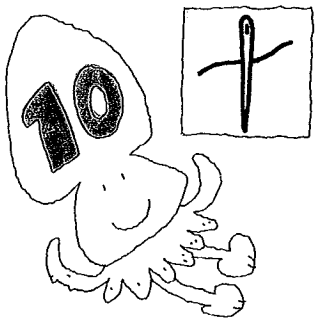
【よみかた】 敵討ち・敵役・敵軍・敵視・敵将・敵対・敵地・強敵・宿敵・政敵・大敵

十

【おん】 ジュウ・ジツ
とお・と

【1年】

【2画】 一 十



【なりたち】 針の形をかたどった字で針の本字。数の十は音シンと発音され、針の音と全く同じだったので、十の字を借り数字として使った。うまく字が作れない場合はこのような兼用が行われた。

【いみとじゆく】

▼数字の一つ。とお。
十戒：①十のいましめ。②仏教で守らなければいけない十の戒律。③キリスト教で神が与えた十の戒律。
十哲：十人のすぐれた弟子。
【用例】孔門の十哲。（孔子の十人のすぐれた弟子。顔回・子貢・子路など。）

▼数の多いこと。
十人十色：好み・考え方・性格などは人さまさまであること。
▼全体。全部。
十全：まったく完全なこと。万全。【用例】十全の用意を整える。

【よみかた】 十指・十中八九・十五夜・十字架・十二支
【さんごう】 特別なよみかた↓
十重二十重・二十歳・二十日

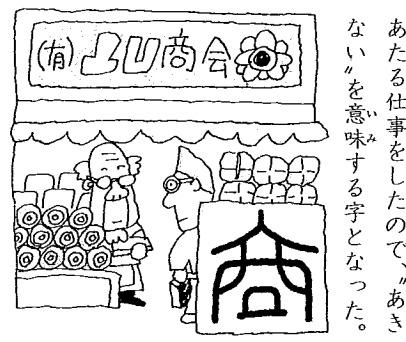
商

商

【おん】 ショウ
あきなう

【3年】

【11画】 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 商



【なりたち】 立派な高殿の象形で、古代の殷（心）王朝の都の名前を表した字。周王朝に亡ぼされた後、商の人たちは「あきない」に従事し、今の行商にあたる仕事をしたので、「あきない」を意味する字となった。

【いみとじゆく】
▼あきなう。あきない。商業：生産者と消費者の間に立って品物を売買する仕事。【例】商業都市
商才：商売をする上での才能。
【用例】商才にたけている。
商談：商売上の話し合い。
【用例】商談がまとまる。
商標：自家の製品であることを示すために商品につけた印。トレードマーク。
▼あきんど。商人。
豪商：富や勢力を持った商人。
【用例】堺（さかい）の豪商。
紳商：紳士の品位を備えた一流の商人。
▼物事のよしあしを決める。はかる。
商量：はかり考えること。協議すること。

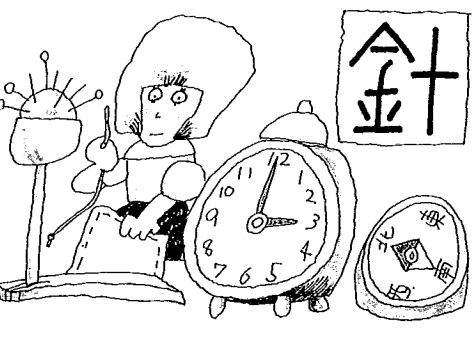
【よみかた】 商魂・商法・行商・小売商・隊商・通商・貿易商

針

【おん】 シン
はり

【6年】

【10画】 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 針



【なりたち】 数の意味と兼用された十に、別に金属の意味の金を加えてできた字。「はり」。

【いみとじゆく】

▼はり。ぬいばり。
針小棒大：針ほどの小さなことを棒ほどの大きさにいうこと。ものごとを大きにいうことのとえ。
針葉樹：針のような形の葉を持つた木。例えば松・杉。
【例】広葉樹

▼針の形をしたもの。
針路：磁石の針の向きから決めた船や飛行機の進むべき方向。転じて、行動すべき方向。
羅針盤：磁石の針によって方位をはかる道具。
指針：①計器などの針。②行動の方向を示すもの。
方針：方向を示す磁石の針から転じて、ある計画や行動を進める上でめざす方向。

【よみかた】 針穴・針金・針仕事・運針・短針・長針・秒針

十針